

令和5年度みどリーむ防災・減災講座 実施報告

テーマ 油断が招く火災の話

開催日時：令和5年7月30日（日）10:00～12:00

開催場所：みどリーむオープンスペース

主催：みどリーむ自主事業部会 防災・減災講座実行委員会
緑区役所地域振興課

参加者：21名（受講者14名、実行委員2名、みどリーむ3名、緑消防署員2名）

講師：緑消防署 舘澤氏

資料：よこはま防災eパーク、住宅防火アドバイス（チェックリスト付き）他多数

1. 挨拶：樋口 防災・減災講座実行委員長

毎日暑く、今日も熱中症警報が出ている中、火災の熱い話を聞く講座に参加いただき恐縮だが、電気火災に関する動画も用意しているので、視聴されると怖ろしさで、背筋が寒くなるかもしれない。



2. 講師による講演

熱中症対策は水をこまめに飲むこと。寝ている間も血液循環で水分が消費されるので、補給が必要である。休日に活動しすぎて熱中症になり、月曜に救急車を呼ぶ例が多い。



◎火災の発生について

- ・電気火災が多い。コンセント部分の差し込み不足やタコ足配線が多い。以前は静電気でのトラッキングによる発火が多かった。
- ・火災現場を見ると、コンセントから上が焼けていて、その下や床は焼損していない事が多い → コンセントが火元と考えられる。
- ・ガスコンロでの火災では調理中にその場を離れ、別の作業をしていたケースが多い。
- ・携帯電話のガラス割れ（本体へ衝撃が加わる）でバッテリー発火につながる事がある。質の悪いものには気を付けてほしい。充電器の火災もある。

◎火災対応について

- ・電気のコンセントは普段は抜いてほしい。入切り時に火花を発するものは使わない。抜くときはプラグを持って抜くようにし、コードを引っ張らないように。
- ・スイッチ付のタップを推奨する。コードが長い場合は、丸くまとめてほしい（抵抗を減らして、電気を流れやすくするため）。
- ・たこ足配線はしない、特にドライヤー使用時には容量を注意すること。ブレーカーが作動した時は要注意（定格電力を越えて使用している）。
- ・住宅用火災警報器設置が義務化された。
10年経過すると電池や部品の寿命から、新しく買い替えてほしい。
- ・接地が必要な器具は、手順にしたがって取り付けること。
- ・携帯には、落下対応のカバーを付けてほしい。
- ・ガスコンロでは、Siセンサー付きコンロを利用してほしい。

- ・配布資料のうち、「住宅防火アドバイス」（横浜市）の「住宅防火チェックリスト」の「コンロ火災対策」「電気火災対策」を読み上げ、参加者が自己チェックした。

◎緑消防署作成動画「電気火災予防編」を視聴

火が小さなうちに消すこと。1分経つと天井まで燃え移る

◎火災の延焼について

- ・個別住宅では、火が天井を突き抜けると、屋根の下から火を噴き、隣に移っていく。壁は不燃化されて来てはいる。
- ・延焼した場合、消防は隣家へ拡大しないよう対応する。延焼防止につとめ、出火した家は消さない（間に合わないため！）。



◎事務所前の駐車場で消火器を使用した消火訓練を全員で行った。



◎救急車と消防車 119番通報

- ・命に関わることは「119」番通報してほしい。早く医師に引き渡したい。
- ・消防署電話もあるが、119番に転送されるので対応が遅れる。
- ・消防車出動はまず現地消防署、2台目は区内から、3台目は他区から来る。
- ・救急車と一緒に消防車が行くのは、救命の有資格者の確保のため。

◎応急手当

- ・救命処置で反応がないときは、胸骨圧迫で血液が循環出来るようにする。
- ・AEDは心臓の血液を送り出すよう、痙攣を起こしている心臓の動きを電気ショックで元に戻すもの。

◎配布資料による情報提供

- ・横浜市民防災センターの体験学習
- ・よこはま防災 e-パーク（ウェブサイト）による学習

3. 閉会挨拶（田中実行委員）と舘澤氏との質疑

- ・分かり易く説明いただき、ありがとうございました。
- ・自宅の火災を早期に発見して消火するよう、住宅用火災警報器を10年ごとに取り換えてほしい。
- ・緑区では、幸い他区のような住宅密集した不燃化推進地域はないが・・



→関東大震災時のような台風が発生した場合は要注意である。

4. アンケート結果（別添）

猛暑の中 真剣に受講して、火災を自分事として受けとめて頂けた。

以上